



2013年6月6日

世界初のガラス製ベンチルーフがFIFAコンフェデレーションズカップにて実現

AGC 旭硝子株式会社

AGC（旭硝子株式会社、本社：東京、社長：石村和彦）は、世界初の競技者用ベンチ向けガラスルーフを、6月15日にブラジルで開幕するFIFAコンフェデレーションズカップ2013の6会場16試合の全てに提供します。

このガラスルーフは、スマートフォンやタブレットPC、テレビなどのカバーガラスとして広く使われている、当社の化学強化用特殊ガラス Dragontrail®を用いて開発されました。

AGCならではの、強く、しなやかで、傷にも強い Dragontrail の3層合わせにより、強靱かつ大型化が実現し、さらに屋外での使用においても変形・変色・劣化せず長期にわたりクリアな視界を保つことが可能となりました。

AGCは、昨年10月に、2013年のコンフェデレーションズカップおよび2014年のワールドカップ™ ブラジル大会への、FIFA公式認定ガラスルーフの提供に関するブランドライセンス権を取得しました。従来の競技者用ベンチ向けルーフは樹脂製でしたが、AGCは、建築用、自動車用、電子・ディスプレイ用のそれぞれの領域で培ったガラス技術を結集することにより、世界初の強く、しなやかで、大サイズのガラス製ルーフを生み出すことに成功しました。

今回の製品提供に関するCEO石村和彦のメッセージです。

「FIFAの要求水準を全てクリアし、コンフェデレーションズカップ向けに、世界初の競技者ベンチ向けガラスルーフの開発に成功したことを嬉しく思います。

本製品は最先端のガラス技術を結集したもので、ガラスという素材の進化と未来に向けた可能性を全世界の人々に直接お伝えすることになります。

FIFAの大会で素材メーカー製品がフィールドへ設置されることは極めて稀です。FIFAの高い期待に応えるべく、来年のワールドカップに向け、さらなる技術開発に取り組んでいきます。」

AGCは、建築用、自動車用、電子・ディスプレイ用の全ての領域においてガラスを製造する当社にしかできないガラスルーフの実現を通じて、ガラスの可能性を一層広げていきます。



■AGCグループについて

旭硝子株式会社（AGC）を中心とするAGCグループは、建築・自動車・ディスプレイ用ガラス、化学品、その他の高機能材料を世界のお客様に提供するソリューション・プロバイダーです。100年以上に渡る技術革新の歴史の中で、当社グループはガラス、フッ素化学、セラミックスなどの分野で世界トップクラスのコア技術を培ってきました。現在、グループ全体の年間売上は約1.2兆円、従業員数約5万人であり、およそ30の国や地域でグローバルに事業を展開しています。

AGCグループに関する情報は、当社WEBサイトwww.agc.com/ をご覧下さい。

以上

◎本件に関するお問い合わせ先：**AGC** 旭硝子(株) 広報・IR室長 上田 敏裕
(担当：戸張、杉山、高橋 TEL: 03-3218-5603、E-mail: info-pr@agc.com)

<ご参考>

【競技者用ベンチ向けガラスルーフ】



寸法	
幅:	11.5メートル
高さ:	1.9メートル
奥行き:	1.0メートル
ガラス厚み	6ミリメートル
座席数	23
生産場所	日本

【Dragontrail®について】

傷が付きにくく割れにくいという特性をもつ Dragontrail は、数多くのスマートフォン、タブレットPCのカバーガラスに採用されています。

Dragontrail に関する情報は、当社 WEB サイト <http://dragontrail.agc.com/> をご覧下さい。